

# 第5回 文京区基本構想推進区民協議会

日時：令和元年10月25日（金）  
18時30分～20時35分  
場所：シビックセンター24階  
区議会第一委員会室

文京区企画政策部企画課

第5回 文京区基本構想推進区民協議会 会議録

「委員」	会	長	辻	琢也								
	委	員	根尾	櫻子								
	委	員	下田	和恵								
	委	員	中村	雄介								
	委	員	輪座	峯雄								
	委	員	杉田	明治								
	委	員	島川	健治								
	委	員	岩間	朗子								
	委	員	鈴木	洋子								
	委	員	武井	さゆ								
	委	員	中野	吉庸								
	委	員	乾	竜也								
	委	員	大村	秀男								
	委	員	長尾	ふゆ								
	委	員	三枝	正人								
	委	員	宮崎	幹子								
	委	員	吉本	弥生								
「幹事」	企	画	政	策	部	長	久	住	智	治		
	企	画	課	長	大	川	秀	樹				
	政	策	研	究	担	当	課	長	小	林	美	緒

○**社会長** 今日もありがとうございます。

それでは、時間が過ぎましたので、第5回の文京区基本構想推進区民協議会を始めます。

本日は、今年度予定している最後の区民協議会ということになります。

まず初めに、委員の出欠状況や配付資料等につきまして、事務局から説明をお願いします。

○**大川企画課長** こんばんは。企画課長の大川です。足元のお悪い中、ありがとうございます。

それでは、委員の出欠状況につきましては、平田副会長、北見委員、青木委員、出井委員、岩永委員、岡田委員と辻委員の方については、欠席の連絡をいただいております。まだ来られていない方については、後ほど来るものと思っております。また、今回の幹事の出席につきましては、企画政策部長、企画課長、政策研究担当課長という3人での出席になっておりますので、よろしくお願ひいたします。

次に、資料の説明になります。本日使用する資料につきましては、まず、以前お配りしております資料第5号、次期行政計画『(仮称)「文の京」総合戦略』の策定について、9月26日にお配りしているものですので、そちらを使いたいと思います。もしお手元に資料がない方がいらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。

そのほか、本日席上に配付させていただいている資料をご説明いたします。

まず、次第です。A4縦1枚物の次第。それと、座席表になっております。そして、また冊子としまして「文京区基本構想」と「文京区基本構想実施計画」という2冊を置かせていただいておりますので、よろしくお願ひいたします。

また、本日、ご発言するときには、恐縮ですけど、マイクで赤ランプをつけていただいて、お名前をおっしゃってご発言のほど、お願ひいたします。

以上になります。

○**社会長** はい、よろしいですか。

本日ですが、ただいま説明がありましたとおり、今日は、区が現在策定を進めております次期行政計画、「文の京」総合戦略について審議をします。

冒頭申し上げましたが、今回が最後になるということと、それから、一応、第2回の区民協議会、9月26日のときに、この総合戦略の概要についてご説明しています。そこで、今日は、いつもとちょっと異なる運営の仕方をしたいと考えておまして、今回最後に当たりますことから、事務局の方からも私の方からもやはり全員の皆さんに意見をいただきたいというふうに思っております。それで、まず最初に、お一方3分以内で次期行政計画について、それは自分の関心のある分野のことでも構いませんし、全体の作り方でもいいですし、今回の計画進捗に当たっての感想も含めまして、一人3分以内でご意見をいただきたいと考えています。

一応、一度は説明しましたが、今回、3分しゃべるつもりで全員来ていらっしゃるわけではないと思いますので、課長の方から少し長目に、改めてこの概要骨子についてご説明いただきます。この説明も聞きながら、改めて今までのご経験と、それから課長の提起されているところで感じ

るところを3分以内でまとめていただいて、課長が一括して説明した後、吉本さんから順番に、一人3分で皆さんのご意見をいただきたいと思います。

ご意見をいただいた後、今度、それをまとめて、少し分野ごとに整理して、課長の方から答えられる範囲で今の実情の説明等をいただきまして、少し深掘りしたい点を改めて皆さんの方にお伺いしたり、意見交換するという段取りで進めたいと考えております。よろしいでしょうか。

それでは、まず、大役ですけど、最初に企画課長の方から説明をよろしく申し上げます。

**○大川企画課長** よろしくお願いいたします。

今回、今までの4回の実現度評価と違いまして、各関係の課長の出席がございませんので、なかなか全部答えられるかどうかというところが、こちらとしても答えられない部分もあるかと思えます。ただ、いただいたご意見については、これから計画の策定を進める中で、反映できるものは反映させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、26日のおさらいになりますけれども、今、計画の策定を進めております「文の京」総合戦略について、簡単にお時間をいただいてご説明をさせていただければと思います。資料第5号をご覧くださいながら、お聞きいただければと思います。

今まで、この4回にわたって、こちらの基本構想実施計画の実現度評価を行っていただきました。231の事業の中で各分野で二つから三つ指標を設定して、目標の達成状況でA、B、Cというところの評価と次への課題を今までご審議いただいたところになります。

今度の、今考えている新しい計画は、資料第5号の1ページの一番下のところ、3の(2)をお読みいただければと思います。重要性・緊急性が高い優先課題を明らかにした「重点化計画」に位置づけております。

ですから、これまでの計画の体系を少し見直そうと考えております。それを、どういう形で見直すのかといったところをお話ししたいと思います。恐れ入ります。この実施計画の26ページをご覧くださいいただければと思います。こちらの分厚い冊子の26ページになります。よろしいでしょうか。大丈夫でしょうか。

こちら、26ページが今の計画の体系という形で一覧表が出ております。ご覧のように、大項目、中項目、小項目という形になっておりまして、その下にそれぞれ事業をひもづけている形が今の計画の体系になっています。

中項目のところの子育て支援ですとか教育、こういうところが基本構想の19の分野別の将来像とリンクをしている状況になっています。新しい計画では、この中項目、小項目という体系を、少し見直しをしたいと思っております。

恐れ入ります。資料第5号の別紙2をご覧くださいいただけますでしょうか。こちらが「戦略シート」主要課題一覧をお示ししております。これまでの中項目、小項目の体系をこういう形に変えたいと思っております。今までの計画の中項目、小項目を見ていただくと、子育て支援ですとか教育ですとか高齢者福祉、語句でいわゆるインデックス的な取り扱いをされてきてまいりました。今

回の実現度評価でも、それに目標を設定して、その目標をどれだけ達成したかという指標で進行管理をしてきております。

今回の新しいところでは、それを基本政策の1から5、「子どもたちに輝く未来をつなぐ」から、「環境の保全と快適な安全なまちづくり」という基本政策の5本を設定しまして、その下に主要課題を設定するという形に変えております。

恐れ入ります。その資料の10ページをご覧くださいと思います。10ページのところが主要課題のNo. 1で、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援、こういう課題の解決に向けて区が取り組んでいく形にしております。いわゆる、区が抱える、地域が抱える課題を選定して、データなどによって現状をお示しして、その解決に向けてどのような事業を展開していったらいいのかという体系に変えていく形です。ですから、今までは目標を数値として設定して、その目標をどう達成できたのか、できなかったのかという形で進行管理をしてきましたけれども、これからは、この課題のどこまで解決が進んだのか、解決に向けてどれだけ課題解決が進んでいったのかという、課題解決型という形での体系に変えていきたいと思っております。

26日にも説明したように、基本構想の理念と将来都市像というのは継承してまいりますので、こういう課題の解決を一つ一つしていくことで、将来都市像に近づけていこうという形の進行管理にしていきたいと考えております。これが、今回の新しい計画の体系とご理解いただければと思います。

総論的なところは以上になります。

これから、この10ページ以降の主要課題、全部で54、現在選定しておりますので、その部分について簡単ですが一つ一つ解説をしていきたいと思っておりますので、このNo. 1のところからおめくりいただきながら、私の話をお聞きいただければと思います。

まず、主要課題の一つ目、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援です。こちらについては、基本政策の「子どもたちに輝く未来をつなぐ」にひもづけているものになります。この基本政策の1では、全部で13の主要課題を設定しております。

一つ目の切れ目のない支援につきましては、現況として、最近では本区の出生数は2,000人を超える状況であるということ、また、合計特殊出生率についても1.24まで回復して、都の平均を上回っているという状況です。その一方で、子育て家庭は核家族化や地域とのつながりが薄い生活環境で周囲からの支援を受けることが困難な状況にあるということです。そういうところで、母子の健康や子育て相談を行っているネウボラ相談についても件数が増加傾向にあると捉えております。

そういう中で、妊娠・出産・子育て期にわたる切れ目ない支援、また適切な知識、情報提供と気軽に相談できる環境づくり、子どもを望む区民の方の健康の維持、増進等の支援に取り組むべきだと捉えております。

おめくりいただきまして、主要課題の2番目になります。こちらは、保育サービス量の拡充・

保育の質の向上で、①のグラフのように、0歳から5歳の就学前の児童人口は増加傾向にあり、31年4月1日現在では1万2,176人という形で、26年と比べると1,953人増加しております。

そういう中で、区としては保育所の定数を26年から31年までに3,055人増やしてまいりました。最近はその影響で待機児童数も減少をさせることができいております。その一方で、私立認可保育所の急激な増加を踏まえまして、指導検査等を強化していき、保育の質の向上にも努めなければいけないと捉えているところです。ここでは、待機児童の解消と保育の質の向上というところを取り組むべきこととして挙げております。

次のNo. 3、子育て支援サービスの安定的な提供です。こちらについては、年少人口も増加傾向しております。特に就学前児童の増が顕著となっております。様々な子育ての支援サービスを提供しておりますけれども、その中でも特に、一時預かり事業と病児・病後児保育事業のニーズ量が非常に高いと捉えております。また、昨今の保育事情から、保育士やベビーシッターの不足が懸念されております。そういう状況の中で、一時預かりですとか病児保育という子育て支援サービスの安定的な提供をしていくべきだと捉えているところでございます。

続いて、4番目の主要課題、子どもの発達に寄り添った支援体制の整備です。こちらは、障害児の通所サービス等の利用者は増加傾向にあるということ、また、児童発達支援センターの利用や教育センターでの総合相談室の利用者も増加傾向にございます。また、医療的ケア児も増えております。全国規模で言って、全国で約1.8万人と推計されております。10年で2倍を超えているところです。

そういう状況の中で、本区としましても、障害福祉サービス事業所の確保、充実、施設の受け入れ体制の整備、また、医療的ケア児の支援に関する組織横断的な情報共有の場と適切な支援体制の整備に取り組むべきと捉えております。

14ページ、5番目、(仮称)文京区児童相談所設置に伴う総合的な支援体制の整備です。こちらは、①のグラフのように、児童虐待の相談件数が増加傾向となっております。本区は現在、令和4年度後半の児童相談所の開設に向け準備を進めているところです。開設後も、相談窓口から適切な専門機関へつなげる体制づくりが必要と捉えております。孤立しがちな子育て家庭の早期発見、適切な支援、また、児童相談所の設置に伴う児童相談体制のさらなる強化に取り組むべきとしております。

続いて6番目、子どもの貧困対策です。こちらも、全国において7人に1人が貧困状態にあるという統計が出ております。また、特にひとり親家庭については、2人に2人が貧困状態というデータも出ております。そういう中で、関係部署間の連携強化によって計画的に子どもの貧困対策の事業を実施していくべきと捉えております。

次に、主要課題7番、ここから教育の分野に入っていきます。子どもの健康・体力の向上につきましては、本区の児童・生徒の体力は改善傾向にあるものの、体力要素によっては、都や国に

比べて依然として低い状態になっております。そういうところで、各学校での体力向上の指導ができる環境、また、体力づくりを支える基本的な生活習慣の定着に取り組むべきとしております。

続きまして、8番、新しい時代の「学力」向上です。こちらは、グローバル化や情報化などによる社会の変化に対応する力の育成が今度必要になってくるということで、大きく、外国語教育の充実、情報活用能力の向上ということでICT環境の整備というようなところを挙げております。外国語によるコミュニケーション能力や情報活用能力の育成に取り組むべきとしております。

9番の、共に生きるための豊かな心と行動力（共生力）の育成につきましては、いじめによる事件が最近でも報道されており、本区でも、平成29年には小学校では79件、中学校では24件のいじめの認知をしております。また、幼児・児童・生徒の自立を目指し、一人一人の能力の伸長、また、社会に貢献できる人間を育成するという基本理念が示されておまして、その中で特別支援教育の課題に対する仕組みについても取り組むべきことと整理をしております。

続いて、10番目になります。不登校への対応力強化です。こちら中学生の不登校出現率は増加傾向で、平成29年度は5.38%（111人）とカウントをしております。こういうところで、不登校の未然防止や早期対応に向けた関係機関への支援体制の充実、また、学校復帰や社会的自立のための居場所づくりなどに取り組むべきとしております。

続いて、学校施設等の計画的な改築・改修等になります。こちら、区立小中学校30校のうち、築40年以上の学校が21校で、施設の老朽化が進行しております。また、児童数の増加傾向によって教室の増設対策等、計画的な施設改修が必要となっております。そういうところで計画的な改築・改修工事によって安全・快適な教育環境の確保に取り組むべきとしております。

続いて、就学児童の多様な放課後の居場所づくりです。本区におきましては、育成室の在籍児童数も年々増加傾向にあるという状況でございます。また、育成室のほか、放課後全児童向け事業を全区立小学校で実施しておまして、そちらも人数は増加傾向であります。そのほか、児童館ですとか都型学童でも、放課後の居場所づくりに努めているところでございます。就学児童の増に伴いまして、より一層、居場所の整備の充実に取り組むべきと捉えております。

13番の、青少年の健全育成と自主的な活動の支援、こちらにつきましては、最近では青少年の9割がインターネットを活用しておまして、SNSなどによるコミュニケーションが常態化しております。そういったところで青少年の社会参画の契機となる取組ですとか、青少年の自主的な活動の起点となる環境の整備に取り組むべきとしております。

ここまでが教育になります。

続いて、14番以降が「健康で安心な生活基盤の整備」で、福祉・健康の分野になります。

14番の介護サービス基盤の充実におきましては、要介護・要支援認定者数が増加傾向にあります。ただ、特別養護老人ホームなどの施設のサービスの充実を求める声が多い一方で、要介護・要支援認定者の68%、約70%は自宅での暮らしを希望しているというデータも出ております。そういう中、特別養護老人ホームや地域密着型サービスの拡充、それと、介護事業従事者の

確保・定着に取り組むべきとしております。

次の15番から18番については、一括して地域包括ケアシステムの深化・推進として捉えております。

15番につきましては、まずは在宅医療・介護連携の推進になっております。都の推計では、2025年の区中央部の在宅医療等必要数が1日当たり1万1,864人となっております。やはり在宅で療養できる体制を整える必要があると、そういう視点から医療・介護の連携の体制を充実させていくことに取り組むべきとしております。

16番は、認知症施策の推進です。こちら4年間で600人以上の増加という認知高齢者の状況になっております。また、高齢者あんしん相談センターの相談件数も増加傾向ということで、認知症に関する知識、理解の普及啓発、また、地域のネットワークづくりに取り組むべきとしております。

17番、介護予防・地域での支え合い体制づくりの推進ですけれども、こちら、多くの高齢者の方が、介護が必要になることへの不安を感じております。健康管理や介護予防事業への関心が高いということで、介護予防に関する知識の普及啓発、また、身近な地域で継続して介護予防に取り組める場、元気に活動できる場の充実に取り組むとしております。

18番は、高齢者の居住安定の支援になります。高齢者は、民間賃貸住宅の入居制限を受けやすい傾向がございます。そういうところから、高齢を理由に入居を拒まない住宅確保の促進、見守りや入居時の支援に取り組むこととしております。

19番、高齢者の見守りと権利擁護です。高齢者世帯数が増加をしている、また、高齢者あんしん相談センターでの高齢者虐待に関する相談件数も年間で400件を超えるというところなんです。こういうところで、高齢者を地域で見守り、支え合う体制の支援と適切なサービスの提供に取り組むべきとしております。

20番として、地域共生社会を目指した総合的・包括的な相談支援体制の整備。昨今、大人のひきこもりということでの8050問題、また、ダブルケア、ヤングケアラーの課題が顕著になってきております。そういうところから、多様な課題に関しての相談できる環境整備、また多機関の連携、ネットワークの構築をすべきとしております。

21番からは障害福祉になります。障害者の自立に向けた地域生活支援の充実で、こちらのサービス利用者数も増加傾向しているということで、障害者の地域生活を支援する身近な相談拠点の拡充、またグループホームや通所施設等の計画的な施設の整備に取り組むべきとしております。

また、22番では、障害者の一般就労の定着・促進で、障害者就労支援センターの新規就労者数が増加傾向にあります。また、その一方で、なかなか定着をしない状況もございますので、障害者の一般就労への移行・定着支援に努めていくということです。

23番としましては、障害者差別の解消と権利の擁護です。障害者についての虐待等もございます。そういうところでの、障害者が主体的に社会参画できる環境の整備に取り組むべきとして



おります。

24番は、生活困窮者の自立支援です。生活保護率は、近年増加が抑えられておりますが、生活困窮者の方の社会的・経済的自立に向けた支援を行うことで、生活保護者にならない取組に努めてまいります。

25番、適正な医療保険制度の運営で、国民健康保険の被保険者数と療養費は減少傾向にありますが、一方で年間一人当たりの医療費は増加傾向にあります。ということから、医療費の抑制に向けた取組、またジェネリック医薬品等の利用促進等に努めていくとしております。

26番、健康の分野で、区民の主体的な生活習慣の改善です。死因の約6割は生活習慣に起因する疾患があることから、健康的な生活習慣の周知と意識的な生活習慣環境に取り組むとしております。

27番が、がん対策の推進です。死因の第1位は悪性新生物であることから、がん検診等の受診率の向上に向けて早期発見、早期治療に取り組むとしております。

28番は、自殺対策の推進です。今年度、本区では自殺対策計画を策定いたしました。それに向けて自殺対策を進めていくというものになります。

29番、受動喫煙等による健康被害の防止につきましては、文京区の喫煙習慣は11.9%と喫煙をする方は比較的少ないですが、受動喫煙を防止するための取組を進めていくとしております。

続いて、基本政策3番、「活力と魅力あふれるまちの創造」になります。中小企業の企業力向上で、区内事業所数は年々減少傾向になっています。そういうところで、中小企業の経営基盤の強化、生産性の向上に努めるということと、中小企業の人材確保、定着に努めるということです。また、創業の支援についての取組も行っていくとしております。

次の31番に関しましては、商店街の活性化です。商店会の加入数も減少傾向となっております。こうした中で、地域特性を生かした取組の支援、またインバウンド事業に取り組むための購買環境の整備に取り組むとしております。

32番、消費者の自立です。こちらにつきましても、還付金詐欺、架空請求や通信・接続料等の相談等が多いことから、消費者教育、また、消費者相談の充実に努めていくとしております。

33番、文化資源を活用した文化芸術の振興です。こちらは、文京区ゆかりの文化人や文化芸術発信拠点、文化の資源が豊富なことから、文化人の顕彰の事業に努めていくとしております。また、令和4年には森鷗外の没後100年を迎えることから、森鷗外の魅力の発信にも取り組んでいきたいと思っております。

34番、誰もが観光に訪れたいくなるまちの環境整備です。観光客が増加している中、観光客を迎え入れるハードとソフトの両面からの環境整備を考えております。

35番、都市交流の促進です。本区は、海外の3都市、国内の12自治体と協定を締結しております。そういうところの区民レベルでの国内交流、また、交流の促進に取り組もうとしており

ます。

続いて、36番、基本政策「文化的で豊かな共生社会の実現」です。地域コミュニティの活性化については、町会・自治会の加入率が65.8%と下降傾向にあります。町会・自治会の活動支援ですとか、地域コミュニティの担い手の発掘支援・育成に取り組んでいくものです。

37番、図書館機能の向上です。築40年を超える図書館が3館あり、老朽化が進行しているということで、図書館に求められる機能向上の検討、また改築に向けた計画策定を進めていくとしております。

38番、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の推進とレガシーの継承です。オリンピック・パラリンピックが、いよいよ来年になりますけれども、機運醸成や障害者スポーツの理解促進等を進めていこうと思っております。

一つ一つ説明し、長くなり、すみません。

39番、男女平等参画社会の実現です。固定的な性別役割分担意識がいまだに根強いということから、男女平等参画社会を支える意識の形成、女性の方が様々な分野で活躍できる支援の推進をしてまいります。

40番の人権と多様性を尊重する社会の実現につきましては、ハラスメント行為、インターネットによる人権侵害、性自認・性的指向への理解不足による差別等がありますので、多様性を認め合い、人権尊重の理解促進に取り組んでまいりたいと思っております。

最後、基本政策5「環境の保全と快適で安全なまちづくり」になります。

41番、誰もが暮らしやすいまちのバリアフリー化の推進につきましては、バリアフリー基本構想を策定し、各事業者が共通の方針に基づき主体的に事業を推進することが必要としております。新たな課題の改善策の検討ですとか、特定事業への位置づけをする必要があると思っております。

42番、安全・安心で快適な公園等の整備です。こちらにつきましても、区立公園の63.4%が30年以上経過している状況です。そういう中で、公園の再整備と公衆・公園等トイレの洋式化に取り組むべきとしております。

43番、地域の特性を生かしたまちづくりです。「都市マスタープラン」に基づき、地域の特性を生かしたまちづくりに取り組んでおります。また、景観計画を策定しまして、良好な景観形成のための届け出制度を運用しており、約6割の区民の方が周辺地域の町並み・景観に満足しているという状況が出ております。引き続き住民主体のまちづくりを進めて、地域の魅力を生かした良好な景観形成に取り組んでまいります。

44番、移動手段の利便性の向上です。コミュニティバス「Bーぐる」の1日当たりの利用者数は2ルートとも横ばい傾向であると捉えております。令和3年度に本郷・湯島地域に新路線導入をする予定としております。そういうことと、自転車シェアリング事業の本格実施も控えておりますので、移動交通手段の利便性の向上に取り組んでまいります。

45番、地球温暖化対策の総合的な取組。これは、世界的な規模で温暖化が進んでいるということで、本区としましても二酸化炭素排出量の削減に向けた取組、また、気候変動やゲリラ豪雨、台風などの水害や土砂災害の対策にも努めていくものです。

46番の循環型社会の形成です。食品ロスや廃プラスチックごみの問題への対応、ごみの発生抑制に取り組んでいくというものでございます。

47番、生物多様性と都市の発展・再生です。昨年度、「生物多様性地域戦略」を策定いたしました。自然と共生した持続可能な社会の実現に取り組んでいくとしております。

48番以降が防災関係になります。

48番、地域防災力の向上につきましては、首都直下型地震の被害想定では、本区の人口の2割に当たる4万人の方が避難所で生活をするとしております。しかし、残りの8割の区民の方が避難所以外での生活をすると考えられております。区民防災意識の啓発、防災行動力（自助）の向上、また区民防災組織や運営協議会の防災行動力（共助）の向上に努めてまいります。

49番、災害に強い都市基盤の整備です。本区では4メートル未満の細街路が非常に多く、災害時に緊急車両乗り入れなどの妨げとなっております。また、土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域に指定されている崖もあります。そういうところで震災時等の消防・避難活動の経路確保ですとか、建物の耐震化・不燃化促進に取り組むべきとしております。

50番、防災拠点機能の強化です。こちらは、避難所環境のニーズとして、飲料水や食料の確保、トイレの確保等を求める意見があります。避難所の環境を適切に運営するということについて取り組んでまいりたいと思っております。

51番、災害時の要配慮者への支援です。こちらは、高齢者・障害者・妊産婦等の方々が増える施設の確保が課題でございます。本区では、福祉避難所20カ所、妊産婦・乳児救護所を4カ所設置する予定となっておりますが、要支援者への迅速な安否確認、支援体制の強化に取り組んでいくものでございます。

52番、地域の犯罪抑止です。本区の刑法犯認知件数は、23区では一番少ない状況になっておりますが、特殊詐欺の発生件数も増加しており、被害総額も1億円を超えるということで、こういう特殊詐欺被害防止対策の強化に努めている状況でございます。

53番、管理不全建築物等の対策の推進。全国の空家数と空家率は増加しております。空家等の発生予防、既存する空家の適正管理の促進に努めてまいります。

最後に、54番、総合的な交通安全対策の推進になります。本区の交通事故死傷者は23区で比べて低いですが、自転車に関連する事故数の割合が非常に増えている状況にあります。交通安全対策の強化、特に自転車利用者に対するルール、マナーの周知啓発の強化が必要だとまとめております。

すみません、一つ一つ説明して、時間がかかってしまいました。以上のような主要課題について取り組んでいこうという形です。今、これにひもづく事業をこちらで考えております。ただ、

今までやってきた事業とまるっきり変わるというわけではございませんので、実現度評価の方で議論された事業がこちらにも反映されていくと考えております。

長くなり申し訳ありませんが、主要課題の説明については以上になります。

**○社会長** はい、お疲れさまでした。

私の方から、皆さんが一人3分言う前に、整理をするために一つだけ質問しておきたいんですが、今回のこの54の施策のうち、私たちが今まで実現度評価で全くやってこなかった政策課題があるのかなのか、今までのものを、狙いだとか視点だとか事業の打ち方を変えているのか、それとも、この中には、過去に全くやってこなかったけど今回から新たにやるというようなものがあるか、そこら辺を整理していただけますか。

**○大川企画課長** 54のうち、全般的には、今まで取り組んできた課題なのかなと聞こえたと思いますが、新たな課題として、取り上げたものの幾つかをピックアップしますと、福祉の分野で、地域共生社会を目指した総合的・包括的な相談支援体制の整備、これがいわゆるひきこもり、8050問題ですとかヤングケアラー、ダブルケアラー、そういう部分については、今まで、個別に議論、特別な事業として多くを展開してきたわけではないです。ここについては、新たに一つ加えたところがございます。

さらに、文化的で豊かな共生社会の実現というところで、男女平等参画社会の実現と、人権と多様性を尊重する社会の実現、これらは、どちらかというところ、我々が当然事業を進めていく全般にかかわってくる場所として捉えておまして、当然、個々の事業の中では、こういう男女平等参画社会の実現を意識して事業を進めていきますが、あえてここは普及啓発の部分もまだまだというところがありますので、主要課題として、39番、40番を取り上げたという状況でございます。

このほかは、比較的全体的に、今までも取り組んできたものの課題を継承していると思っております。

全般的に、今までは事業の説明をしてきましたが、こういう課題にどのように取り組んでいったらいいのかといったところを、改めてこちらとしては明確にしているところです。課題解決のためには、いろいろな視点と、いろいろな取り口があるかと思いますが、そういう中で、この4年間では、目指していきたいというところを、具体的に明確にしたと考えております。

**○久住企画政策部長** 今、企画課長からご説明した部分ですが、恐れ入りますが、別紙2の10ページをご覧くださいませるか。10ページのところには、現状、関連するデータ等をお示しして、今、この課題については、こんな状況の背景になっていますよということを、データを用いてお示ししているつもりです。

じゃあ、それに向かって今後4年間でどうするのかということ、大きな方向性であったり、取り組むべき方向性をしっかりみんなで確認しようよ、その方向に向かって取り組んでいく。それを実現することによって、次の4年間でこんなふうにしていきたいねというのを、改めて、この

三角の下の「課題解決に向けて取り組むべきこと」というところにお示しをしているというのが、今回の計画の一つの大きな違いになって、特色と言ってもいいかなと思います。

企画課長からご説明をしたように、これだけ変化の激しい時代になっていて、明日どうなるの、あさってどうなるのというのがなかなか予測しにくい現代社会の中で、ある程度、皆さんと私たち行政と、議会も含めてですけれども、この課題についてはこういう方向を目指していきたいよねということを改めて明確に文字で示すことによって、じゃあこういうことをやっていこうよ、これはこっちの方がいいんじゃないのという議論がしっかりとできることのほうが、この4年間としては、いい施策運営ができるのではないかなというようなつくりをつくっておりますので、ぜひ今日は、個別の施策について、こういうことを盛り込んだほうがいいのかということも含めて、この考え方、方向性はもう少しこういうことの方角性を示したほうがいいのかみたいなものもぜひ、我々だけでは気づいていない部分があると思いますので、そういう部分について新たな気づきになるような形でご意見をこれからいただけるとありがたいと思っております。

以上です。

○**社会長** それでは、まず、お一方3分ずつご意見をいただけたらと思います。それでは、吉本さん、よろしくお願いします。

○**吉本委員** 吉本です。

2年間といますか、この季節に4回ずつだったんですけれども、去年と今年と参加させていただいて、いろんな、幅広い、自分があまり関心のないところでも幅広くやっていたらいいんだなと思って、すごく勉強になりました。

やっぱりこういうふうに入ってくると、テレビを見ていても、じゃあ文京区はどんなのかなとかいうふうにも思いますし、自分にとってもよかったなと思っています。

全体に、会議等で思ったことで、民間企業に勤めていますので、そういう意味では本当に、ずばつと言いますと、昭和のままだなというのをすごく感じます。多分、学校のほうなので、どなたか、いつか発言されていたように、今ほとんど会社ではペーパーレスで、いろんな人が集まっているから、こういうふうに入紙で印刷してくれているのかなと思いましたが、やっぱり学校でも紙で印刷しているのが大変で、プールが減っているみたいなことを言っていた方もいたので、昭和のまますぎるのではないかなというのが、すごく思いました。

あと、昔だったら10年一昔というのが、今、本当に3年前とは全く違うのに、そういう計画を立てたものは粛々とやっていくんだというのは、必要なときもあるとは思いますが、その辺も、そういう、変えないというところが、変わればいいというものじゃないとは思いますが、民間企業で、一番でないだめだというような、新しいものへ行くんだというところでずっと生きてきた人間にとっては、物すごく保守的というか、変わらないなというのが、自分にとってはすごく新鮮というか、何と申しますか、違うんだなと思いました。

あと、本当、今日もすごい雨で、先週もすごかったので、うちも坂の上にあるので、行ったこ

ともない1キロ向こうのあそこに逃げ込まなきゃいけないというのは、一応ネットで見ていて、行ったことのないこの小学校かみたいなのを見たんですけども、やっぱりそういうところも含めて、行政の方とか、ここに来られるような方はそれなりに情報弱者ではない人ばかりで集まってやっているの、淡々と進んでいっているような気がするんですけども、本当に情報弱者の方に、どういうふうにこういう情報を伝えていくかというのは、少し、本当に弱者の方に聞き取りというか、そういうのも必要じゃないかなというふうに感じました。

これ、区民のという形ですけども、今、ホームレスの方を入れなかったというのでごくニュースになっていますけれども、ああいうのもSNSでばっと広がりますし、そういうのを含めて、23区内で2カ所しか決めていないと言っていたので、文京区はどうなんだろうとか思いましたし、そういう、本当に情報が早くなっているの、そういうのも含めて行政の方も大変だとは思いますが、現状に即してというのもやっていただけたらいいなと思います。それに対して、区民が手伝えるというか、子ども食堂なんか、ボランティアの方、やれる方がやってというので、私も行ったこともありますけれども、そういう官民学がうまくみんなで協力し合えるようなことは、もっとどんどん協力できるような土壌がもっと広がったらいんじゃないかなというふうに思います。

参加させていただいて、すごく勉強になりました。ありがとうございます。

○**社会長** それでは、武井さん、お願いします。

○**武井委員** 2年間ありがとうございました。

個人的な感想としては、ふだん会社に行っているだけでは接することのないお話だったりとか、皆さんのいろんな意見が聞けてすごく楽しかったなと思っています。毎回、お金をいただいている働きができているんだろうかという疑問がありつつも、個人的にはすごく楽しい時間でした。ありがとうございました。

この戦略についてなんですけど、基本的には今までのものも、これから考えていращやることも、ありたい状態とか目指している姿に関しては、多分、全員誰も何の文句もないと思うんですね。なんですけど、それに対する打ち手とか、そこに実際つながっているかどうかを見ていくKPI自体が、本当にこれを達成したら、この状態になるんだっけというのが、結構疑問でした。

例えば、自ら考え課題解決する子どもを育てるに当たって、国語と算数の理解度で本当にいいんだっけみたいな、何か、そのつながりがあまり感じられない項目が結構あったなと思っていて、達成したからっていけるのかなと思いつつ見ているのが結構もったいないなというふうに思っていて、その辺がちゃんとつながっていて、ここをみんなで頑張ったら絶対こうなれるみたいな項目が置けるといいなと感じていました。

あとは、できる、できないの線引きが結構あったなというふうに思っていて、例えば子育て世代なので、そこがすごく気になってしましますが、保育の質の向上みたいところで、今ってどんどん私立の認可が増えている中で、どんどん新しくできている中で本当に大丈夫なんだっけと

というのが結構一番見なきゃいけないんじゃないかなと思うんですけど、アンケートは区立にしかとっていないよみたいな、何でとれないのといったら、私立は私立で別でやっているからみたいな、でも、本当に本気でそこを上げにいくんだったら、お願いして何とかしてやってもらうようにしたほうがいいんじゃないのとか、多分、いろんな人がいて難しいとは思うんですけど、できないで諦めるのが結構早くないかみたいなふうを感じることも結構あって、本当に本気でやるのである、区民全員で協力してというふうに置いてできたらいいなど、多分、本当に目指している姿に反対する人はいないと置いたときに、そこに向かってちょっと大変だけど頑張ってくださいよというアプローチをしてもいいのかなというふうに思いました。

以上です。

○**社会長** はい、ありがとうございます。それでは、輪座さん、よろしくお願いします。

○**輪座委員** 私は、老人会を代表して出席させていただいているんですが、老人会だからしょうがないんですけど、会員を増やすのがなかなか大変で、老人ですから亡くなる方がどうしてもあるんで、一生懸命増やしても、それと同じぐらいの方が亡くなってしまう。ほかの地区の老人会もそうなんですけど、会員の維持、増強運動はやっているんですが、23日ですか、この2階の小ホールを借りて芸能大会をやったんですけど、それも会員の増強を目指しての一環なんですけど、そういうことで、何とか老人会、老人クラブがあるということが区の人にわかっていたければありがたいと思うんですけど、なかなか広める方法がないので困っております。

そんなことで、これからも一生懸命やっていこうと思っていますけど、私、今87歳なんです。いつまで頑張れるか、よろしくお願いします。

○**社会長** はい、下田さん、お願いします。

○**下田委員** 民生委員から来ております、下田でございます。

ここに書いてある課題は、私にとっては全部かかわっていると思われる問題ですけれども、特に関心のあるところを少し述べさせていただきたいと思います。

やはり子どものことが一番気になります。子ども支援で、1のところですけども、気軽に相談できる環境づくりとこれからの課題を書いてあるんですけども、それを具体的にどんなふうに進めていくのか知りたいと思います。今、1年間に2,000人赤ちゃんが生まれ、就学前の子どもが増えているけれども、どこにその子たちが住んでいるか、名簿とか情報が全然ないので存在がわかりません。

気軽に相談できる、してもらえる立場の人間がいるのに、お母さんたちが誰とも知り合う機会がないというようなことは、とても寂しいことだと思います。ほかの区市町村では、名簿を出しているところも増えていますから、幼い子どもたちの名簿を民生委員児童委員には守秘義務がありますから、出してもいいんじゃないかと思います。小学生については学校と連携しているので割とわかりますが、幼い子どもたちの名簿を出してもらいたいと思っています。それが気軽に相談できる環境づくりのひとつだと思っています。

地域とか専門職が連携してと言葉では書いてありますけれども、地域とは誰のことなんだろうと考えると、やっぱり児童委員ではないかと考えますので、その辺はこれからご検討していただければと思います。

小学生になりましてからのいじめがかなりまだ多いと書いてありましたけれども、小学校と中学校の連携はしっかりとれているのでしょうか。小学校で行われたことが、また中学校でそのまま引きずっているのではないだろうかということです。また不登校の中学生が111名、いると書いてありましたけれども、公立中学の卒業生だけのことだと思いますけれども、その子どもたちが高校に行ったのか、行かないのか、その後、中退したのかというようなことを少し追跡調査しておく必要があると思います。それは、将来的にはひきこもりにもつながることがたまにはあると思いますので、中学の不登校というものはとても大切に考えて、フォローしていかないといけないと思っております。

その後、高齢者のことにちょっと飛びますけれども、私の考えでは、8050問題は、そこにまたつながっているようにも思いますから。8050のひきこもり問題が新しい課題として東京都でも取り組んでいますので、文京区もこれから相談窓口をつくっていくと思いますが、そのときには、小学校、中学校からつながっている場合もあると思いますので、何か手だてを考えておいたほうが良いと思います。

8050問題については、私たちが民生委員として高齢者を訪問すると、発見することがあります。50歳代の人たちというのは、包括支援センターが窓口にはならない年代で、相談窓口が今ありませんので、その人たちの相談を受け取る受け皿を区でつくってもらいたいなと思っております。そして、できるだけ早いうちにその人たちを救い上げてあげる方法というのが、親御さんにとっても本人にとっても必要で、社会的にもきっとそれは効果のあることだと思っております。

もう一つ、防災についてお願いをしたいと思っております。今回、土砂災害のことが出ておりましたけれども、土砂災害は都のほうから地区を指定してきたそうですけれども、改修することではなくて、早くそこから逃げなさいということを知らせるためだけの土砂災害地域という指定だそうです。しかし、土砂崩れが起きそうなところは早く直すことが先だろうと思っておりますので、その辺から改善していってほしいなと思っております。

それから、避難所の開設が今回も11カ所ありましたけれども、「ホームページを見るように」と書いてありました。これはやはり、情報弱者にとってはホームページを見ただけでは伝わらないと思います。街にある防災無線があまり聞こえないとしても、何か言ってくればありがたいし、私たちのように無線機を預かっている者は、そこから放送してくれても住民に伝えることができます。私は、ホームページを見て高齢者に電話をかけて知らせましたけれども、最終的には逃げないで自宅にいてくださいということをお願いしたんですけれども、ホームページという周知方法だけではこれから弱者を救うということではできないのではないかと考えています。



その三つの課題について私は述べさせていただきました。

以上でございます。ありがとうございます。

○**社会長** はい、乾さん、お願いします。

○**乾委員** 乾です。

私は、この次期行政計画の、今説明をいただいた内容の評価について、1点気になるところを述べさせていただきますと思います。

前回までは、過去3年間、ある程度指標を設けて定量・定性両面で評価するというアプローチをとられてきていて、今回これを変えて、これを見る限り、定量的な指標を何か設けるということではなく、あくまでも目指すべき取り組むべきこととすることを文章で明確にして、それにどれだけ肉迫できたか、事業がそれをどれだけ後支えできたかという方針に変えるということだと理解しています。

ですが、やはり取組を実施した、うまく実施できたかどうかというのは一つ、指標も役に立つ評価方法ではないかなと思っています。というのは、取り組むべきことというのが、先ほど別の委員でもご指摘がありましたけれども、本当に改善したいことに直結できているかというのは、ある程度、短サイクルで結果を集めてみて、その結果、改善しているのかどうかを見ないと、なかなか方向性が合っているのかどうか、事業の取組の適用箇所が合っているのかどうかというのはわからないと思いますので、それを評価するというのは、定量・定性両面で何かしら指標を設けて、つぼを外していないかというのを見ていく必要があるんだと思います。

例えば、先ほど10ページ、課題のNo. 1というところの「取り組むべきこと」というところに関して言うならば、これを導く背景としては、例えば子育てに心理的な不安を感じている保護者の数が少なくない、そういう人数であったりとか、宿泊型のショートステイへの要望が高まっているという、要望に応えられているとか、まさに、こういうことをターゲットにしたいんだということのある程度、各課題に書かれていますし、それを裏づけるデータとしても右側にデータを出されているということは、指標化することはそれほど難しくないと思うんです。その評価だけに、A、B、Cをつけることだけに終始するのはよくないとは思いますがけれども、やはりそういう目線を持たないと、実施したらOKで、しなかったらNGという、白黒だけではもったいないと思うので、何かそういう観点を入れていただくというのは一つあるかなと思って述べさせていただきます。

以上です。

○**中野委員** 中野と申します。

先ほど、大川課長のほうからもありましたように、今の情勢を踏まえての緊急性なり重要性なりを優先的に選定されているということだと思うんですけども、行政サービスですから、多面的に、網羅的に全部課題を整理されて対応されているということなんですけど、我々みたいな一般企業だと、やっぱり予算が限定されていますので、その中でもやっぱり優先度合いだったり

というか、情勢が変わるんで、区民ニーズに合わせた形で、例えば何を早期に実現させるのかとかというところの、わかりませんが、例えば高齢者対策の関係もハード面とソフト面、両方あると思いますけれども、それも、このライフサイクルで20年、30年とか、あるいは15年たったときに、このニーズがずっと維持されるわけではなかったりだとか、特に、子どもさんとかの対応のところも、保育所だったりというところの整備が今、重点化されますけれども、これも都市計画と合わせて、例えば、ずっと今のように人口が増えていくのかどうかとか、じゃあ5年後には、今、新設されたそういう保育所なりの整備も本当はニーズがなくなってしまったりだとか、その後どういうふうに変換させるのかとか、そういうことも含めてやっぱり考えていかないと、財源は有限なんで、そのことも含めて、どうつなげて、どうしていくのか、あるいは、都市計画とも全部これは絡んできていたりとかするので、そういうような関連性がよく、我々、ここに参画していても見えないんで、本当に、例えば子どもについても、先ほど申し上げた、整備はいいんだけど、その先ずっとこれが続くわけでもなかった場合に、このニーズとか、整備したもののハード面ってどうなるのかとか、あるいは、逆に今度、後期高齢者も含めての人口はどんどん増えていくと、文京区でも増えていくんでしょうけど、ここのハード面って、この時間軸で大丈夫なんだろうかというふうに住民からすると思ってしまうと。

もっとやっぱり予算についても、私は個人的には、めり張りをもっとつけて、重点投入して、時間軸を決めてそこに対応していくべきなんじゃないのかなと、そこら辺の何か、やっぱり行政サービスなんで全体のコンセンサスを得ていかないといけないんで、網羅的な課題はわかるんですけど、一方で、住民ニーズに対して、どう即時的というか時間軸を設定して対応していくのかという観点が、ちょっといまちはっきりしないなというところが、この2年間対応していても、これで本当に大丈夫なんだろうかというところが不安になるというところはあります。

以上です。

○根尾委員 私立幼稚園のほうから来ました、根尾です。

2年間ありがとうございました。去年は出張に行っちゃって2回しか出られなかったんですけども、今年はほとんど出られました。

全体的に思うことなんですけれども、こういった行政で決められることというのは、確かにすごくきれいにまとまって形がきれいになっているんですけども、形をつくることに一生懸命になっていて、どれだけ現場の声が反映されているのかなと、ちょっと不安になりました。

このような会議があって、いろんなグループから選出された方々が参加して、じゃあ、どれほど、この会議での意見が次の構想に反映されるのか、すごく、ちょっと疑問になっています。幾ら発言しても、行政の委員会とかの中で決めたそのとおりにただ進んでいくんじゃないのかなと、ちょっと思っているんですけども、やはりこういう構想を決めるのはすごく難しいと思いますし、必ず形を決めなきゃいけないのはわかるんですけど、もう少し現場の声を拾うというところをちょっと気にしていただければいいかなと思います。

私の母は、NPO法人で小学校に入っていて、ちょっと知恵おくれとかじゃないんですけど、少しおけている子どもたちの学習支援などをしているんですが、やはり、そういう支援に入って小学校の中を見ていると、小学校が前よりもすごく荒れているということが、すごく気になると申しております。

だけど、そういった情報というのは、なかなかそこから上のほうには伝わっていかないことで、それも仕方がないんですけど、もう少し、校長先生だけを集めているのでは、あまりそういう意見は来ないかもしれないので、もう少し下に下がって、少し自由に話せるような会議ができたりとかすればいいのかなと思いました。

ありがとうございました。

**○鈴木委員** 区民から来た者なので、私なんかは情報弱者だなと思って、会議にいろいろ参考になることを教えていただくという、そういうような立場だったんですけども、私が一番関心を持っていることは、これから人口が減ることは、文京区は別にしても、日本の人口が減ることはわかっていて、外国人がたくさん来ることもわかっているんで、それで多様性というのがいろんなところで言われているんですけども、やはり多様性、そういういろいろ弱者というべきか、障害者というべきか、情報がなかなか入らない人たちというのが、結構、今現在お勤めになっている方とか、そういう方たちは、いろいろな情報を得る機会もあるだろうし、そういうスキルも持っていらっしゃるけれども、本当に、そういうことになかなか、かかわれない人というのが、やはりこれから増えるというか、確実にいることになっていますね。

例えば、この前の大雨のときも、文京区にいろいろ警報が出て、どこどこに逃げたほうがいいのかということ、外国人の人はわからなかったらしいですね。だから、もちろんテレビなんかで近くの外国人に知らせてくださいとか、英語でもありましたけれども、そういうことを知らない人もたくさんいて、困った人がいるんですね。

だから、本当にこれからの社会は多様化で、いろんな人がここに住まなければいけないので、誰もがここに住みやすいという区にさせていただくためには、もうちょっとそういう弱者の人向けの施策というか、そういうことも考えていただきたいし、あともう一つ、今問題になっているのが、持続化な社会をつくっていかねばいけないということは、もうみんな周知のごとくで、わかっているので、もちろんいろいろなところでそういうことも出ていましたけれども、具体的に、どういうふうに進めて、今どこまで行っているのかということ、やはり、ここにいる人だけではなく区民全体に知らせて、みんなで努力していかねばいけないなということを感じたので、そういうようなことを発信していただけたらというか、いろんな人にわかるような状況というか、区のほうからの情報をうまく流していただけたらいいなと思ひまして、参加させていただきました。とてもいろいろ勉強になりました。

例えば、防災士が二百何人この区にいるということもおっしゃっていたけど、初めて、防災士というのがいて、その人はどういうふうに関わってくれているのかということもわか

らない。そういう区民がいるので、そういうような、せつかくちゃんと区でいろいろなことをしていただいていることを、やはり多くの区民に知らせて、みんなそれを享受できるような、具体的なものを考えていけたらいいなと思っておりました。

以上です。

○大村委員 区民委員の大村でございます。

私も今回、普通の企業の生活を四十数年間続けてきて、全くこういうところに触れていなかった。大変新鮮で、興味深いところが多々あったんですが、ただ一つだけ、やはり今回、次のテーマというか、次の構想のところまで、ちょっと触れることができ、大変うれしいんですけども、頭にひっかかっていたのは、今回2年間やってきて、基本構想ということがタイトルだったんですけども、この中にも戦略というのが出てくるんですが、基本構想は、これだけ人口がいて、たくさんのことをやって、いろんなことがあるので、とても、何かパッと企業がやっているように、この業界のこの分野ではトップにするんだとか、そういう簡単なシンプルなテーマにはならないかもしれないんですが、だけど、とはいえ、やはり何かそういうものが一つあってくれると、私の四十何年間が、不安な気持ちが解消するんですが、そういうものはどこを見てもなくて、基本構想が何で、戦略は何かと思うと、ここにいろいろ項目があって、これはこれで非常にうまくまとまっていて素晴らしいと思うんですけども、やはり中で、今回やり方を変えて、いわゆる課題をあぶり出した上で、課題についてのアプローチを考えると、こういうことなんですけれども、アプローチを考えるのはいいんですが、やっぱり最終的には戦略じゃなくて戦術が必要なわけですよね。それをやるための戦術。というのは、ちょっとそれがこの課題のあたりでは、いわゆる戦術の部分にも入っていくように思うので、むしろ、これは区長さんが、ここの行政のトップなんで、最高責任を持っている方だと思っています。

例えば基本構想を貫くとして、ここのところを見ますと、理念というのはわかるんですけども、例えば構想を貫く理念というところには三つあって、「みんなが主役のまち」、「『文の京』らしさのあふれるまち」、「だれもがいきいきと暮らせるまち」とあるんですが、例えば、この1番と3番は、どの区が使っても全然構わない。2番は「『文の京』らしさのあふれるまち」、これが文京区らしいと言えば文京区らしいんですが、「文の京」は何だろう、ここのモスグリーンのようなところで囲ったところを読むと、文化のかおり高いまちを目指して発展する。では、果たして我が文京区としては、文化のかおり高いまちというのは、文京区の皆さん、文化のかおりというのは、どんなことを文化のかおりと思って、どういうふうに、それをかおり高くするかというところがまさに基本構想で、これはナンバーワン。東京23区中で何ととっても断トツのトップだ。こういうような何か表現ができると、非常にいろんなものがわかりやすくなるんですけども。

そうしますと、例えば先ほど何人かの方がおっしゃっていたんですが、やはりいっぱいありますから、五十何項目、大変なご努力をされて、きれいに整然とまとめておられるんですが、これ

だけあると、やはり優先順位というのは、必ずやっぱり、さっきも出ているように、必要になってくると思うんです。例えば、優先順位をつけるときの考え方はどうなのかと。こういうことを見て優先順位をつけようというか、そういうものは、やはりあってくれるといいんですが、そういうのはちょっと見当たらないんで、不安になるんですよね。

そういうような感じが、もう私は、ずぶの素人だから、どうもそういうのが手がかりになると、すごくわかりやすいんですけれども、そうでないと、非常に言い方が悪いかもしれないですけど、非常に総花的で、非常によくわかるんですよ。きれいにみんなまとまっているんですがね。そうだけど、で、どうなのというふうに、ちょっと思ってしまう。

それから、今回も例えば見ていった中で、これはいわゆる中の評価というか、そういう部分なんですけど、いろんなデータもまとめていただいています、先ほども、ご案内の中でデータに照らしてどうやるというのがあったんです。例えば、どこでもいいんですが、55ページの関連データで、これは単純なんで、このデータの中、②のところ、年間ごみの収集量と区民1人、1日当たりの家庭のごみの排出量が年々下がってきていますよというデータがあったんです。

例えば、仮にこのデータを我々が見たときには、どういうふうに評価すればいいのか。つまり、すごいな、みんな区民が、みんなそういう意識を持って、だんだんごみを出す量が減ってきた。それが功を奏した。だから大したものだなというふうに見ていいのか、それとも、例えばこれ、一人一人が減ったというのは単に、家庭でお食事の用意したりなんかしてやるようなことがなくなって、外食にするとか、そういうことをやったって家庭で出るごみは減るわけですし、いろんなことがあるわけで、だから、そこだけではちょっと突っ込みが足りないかなとか、そういうところが、今回も議論している中に幾つかあったように思いますし、むしろ、そういう評価をするのであれば、徹底的にそここのところの評価をすると。そのかわり、指標は絞ってもいいんだけど、そのかわり、そこはどう言われても動じないぞと、こういう感じを出していただけるといいんじゃないかと思えます。

本当に勝手なことばかり言いましたけど、大変勉強になりました。ありがとうございました。

○**社会長** それじゃあ、向かいに行きまして、よろしく願いいたします。

○**中村委員** 中村と申します。

いつも何か障害者代表みたいなことを言っていますけれども、代表ではありませんので、今日は一般的なこととして、お話しさせていただくわけです。

こうやって拝見して、本当に、これ一つ一つが具体的に政策として実行されれば、素晴らしいなと思えました。

私、この歳の90%、文京区に暮らしています。文京区は非常に大好きです。どうか、これからもよろしく。

それから、できたらね、政策するときには区民の声を反映させてください。よくまとめられていると思います。感謝します。

以上です。

○三枝委員 無作為抽出で選ばれた三枝と申します。

2年間参加させていただいて、本当にお一人お一人の生活に根差したというか、人それぞれの生活に根差したご意見というのは、すごく新鮮で勉強になりました。

私はサラリーマンとして文京区に住んでいるだけというか、そういう感じなので、区政に対するコミットメントの薄さというか、そういうのをちょっと恥じた2年間でもありました。とはいえ、今まで行政にかかわりのなかった自分が、1枚のはがきでこういう縁ができたというのは、すごくうれしいことでもありました。

具体的に中身についてお話しすると、皆様もおっしゃっていましたが、生活の全領域にまたがる課題が、きれいに1冊の本になっていると、どの課題が大事な、大事なというか、重い、軽重がわからなくなっちゃうというのと、優先順位みたいなのがわからなくなっちゃうというのが難しいところだなと思いました。あと、毎回、答弁というか、コメントしてくださる区役所の方というのは、皆さんよどみなくきれいに発言されるので、安心しちゃうところもあるんですけども、逆にどんな質問をしても、すぐ答えが返ってきて、何かちょっと不思議な感じがしたというか、何とも言えない気分にもなりました。

あと、全テーマの中で防災というテーマも、結構、数として出てくるんですけども、常々思っていたのは、行政というくくりは平時のときの対応組織みたいなものかなと思っていて、災害のときというのは、本当に誰にもどうなるか予想できない中で、準備として、避難所の開設のスピーディなやり方とか、いろんな細やかな準備が検討されているのはいいと思うんですけども、実際にどうなるかというのは誰にもわからない中で、区という一つの単位にどこまでこだわる必要があるかというのが、ちょっと常々疑問ではありました。

あと、こうして、こういう会に出させていただいて、これが開かれた行政というものの一環なのかとは思いつつも、僕らが参加してきたのは、ある結果が出たものに対するコメントを求められていたということ言えば、終わったことに対しての意見ということなんで、どなたかもおっしゃっていましたが、今後の行政に本当に反映されるのかどうかというのがわからなかったというところと、最後に、今後の計画についても、資料ができ上がっていますけれども、どういうプロセスで、この五十幾つの課題が選ばれてできてきたのかという、一番大事なプロセスのところには携われなかったというところで、ひねくれた言い方をすれば、そこは巧妙に区民の意見を排除というところであれですけど、つくるところはつくる、区民の意見は別のところで聞く、それが本当にマッチしているのかというのが、ちょっと疑問としては最後残りました。

でも、トータルでいけば感謝の2年間でした。ありがとうございました。

○宮崎委員 2年間ありがとうございました。

平々凡々と文京区で暮らしてはいたんですけども、去年、これに参加させていただきまして、ちょっと頑張っ、て、今年の4月から社会復帰をしまして、また保育園で働き始めました。7、8

年ぶりに働き始めて、ギャップにびっくりしました。まずは、昔はカセットですとか、CDを使っていたものが、今はYouTubeです。そして、Wi-Fiを探してウロウロ、ここは電波がない、こっちは電波がある、というのが大体の日常なんですけれども、そんなこんなで、いろいろと覚えることが本当にたくさんありました。

まずは、外国人のお子さんが増えたこと。それから、当然そのお子さんたちは言葉が通じません。保育士たちは英語がわかりません。そうなるとうなるかという、スマホを持ってきて、やるんですけれども、それもうまく使えない。なので、なかなかコミュニケーションが取れない。たった一人の外国人の人とのことでさえもそれなので、これはやっぱり大変なんだと、まして宗教ですとか考え方、いろいろありますので、そこで悪戦苦闘しているのが毎日です。

それと、今回ここに出させていただいて、まず感じたことは、保育園、幼稚園、私立、公立の線引きの、とにかく多いこと。同じ子どもさんを預かっているのにもかかわらず、どうしてそんなにたくさんの線引きがあるんだろうか。昔でいうと文部科学省と厚生労働省の線引きなんでしょうけれども、教育と保育、でも受けている子どもたちは同じ子どもたちなんですよ。そこがもうちょっと国、都、区で、いろんなことがあるんでしょうけれども、もうちょっとやわらかな線引きにできないものか。そして、幼稚園でできていることは保育園でも、保育園でできていることは幼稚園でもというような、要は教育と保育の中間的な、子ども園的なことができないのかなと、つくづくこれを聞いていて思いました。

そして、保育園と幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、全ての公立、私立の枠を取っ払ってしまえば、文京区は、かなりの数があると思うんですね。なので、そこがいろんな意味での発信基地になれば、結構な力になるのではないかと思います。

役所の中にあるポスター。いろんな、こう、ありますよね。無料でお持ちくださいという。ああいうのを、そういうところに常時置いておいて、自由に持っていけるように、とんでもないお金がかかるのかもしれませんが、役所だけにあっても、わざわざ区役所まで取りに来る人はいないでしょうし、出張所はどんどん減っています。そうすると、幾らいいものをつくっても、気がつかない。知らなかった。先ほどのお話じゃないですけれども、テレビもうまい時間につけなければ、その情報は入ってこない。そうすると、そういう小学校、中学校、高校、大学、保育園、幼稚園、全てのところプラス、マンションの掲示板、そういうところで、自由に、人が無作為に見れるような、取れるような、そういうようなことができたなら、それはまた、とってもアナログなんですけれども、一つの力になるのではないかと思います。

この2年間、ありがとうございました。

**○杉田委員** 杉田でございます。文京区の商店街連合会から来ておりますので、商店のことで。

やはり、商店数の減少というのは、やっぱり非常に私どもも頭を悩ませているところでございますけど、商店自体は、やはり町を明るくして、安全・安心の見守り手として必要でございますけども、なかなかその数が、減っていくという原因の一番大きいのが、やはり後継者がいなく

てシャッター化してしまうというところが多いところがございます。

それに関しましては、やはり借家権が強いというところがあって、定期借家の問題とか、もうちょっとアピールして教えてあげる。それから、サポートしてあげるところが今後必要なのかなということを感じるとともに、もう一つの減少の原因の大きいのが、やはりマンション化でございまして、マンションができると、やはり、そのマンションの格を高めるためにということで、デベロッパーが1階に店を入れないということが非常に多いので、やはり今後、文京区というのは、やはり一番、住宅としては一等地でございますので、23区の中で一番いい住宅地ということでございまして、マンション化というのは今後もとまらないと存じますので、せめて商店街にあるところに関しては、一定規模のところは必ず商店をつくるとか、そのためには、中高層建築物の条例等の多少の変更で、駐車場を少し飛ばすことができるとか、いろいろな方策を取っていただければ、1階に店舗がつかれるのではなかろうかなというところがございます。

やはり商店会としては、また町会としても、明るくなるためには、本当は個人商店が入っていただいて、町の担い手、町会の役員もやっていただければ一番いいんですけども、そうじゃなくても、チェーン店であっても、できることが必要かなということは考えております。

それから、おかげさまで文京区の商店は、ほかの区に比べると、商店数、加盟店の減少が若干少ないというところがございます。その原因は、平成23年から文京区さんと一緒にやっていただいておりますプレミアムお買物券事業に関しまして、それをやりたいということで、入っていらっしゃる方が非常に多くなってきているということは事実でございます。

ただ、これは、お客様と私どもをつなげるきずなということでございまして、こちらの活性化のところに書いてあります。確かに個店の売り上げ増加というところに関しては、現実には、今発行していただいている金額、だんだん上がってまいりましたが、昨年度の例では3億円。3,000万円のプレミアム分をいただいてということで、3億3,000万円ということでございますけれども、加盟店数、使えるお店の数からいきますと、大型店が半分ぐらいの売り上げを占めておりますので、1店舗当たり20万円ほどにしかないということでございますので、やはり大型店と共存して、それを使えることは非常にいいことです。消費者のためにもいいことでございますけれども、やはり商店の活性化ということで考えていただければ、例えば新潟市ですと、80万都市で55億円のプレミアムお買物券の発行をしております。文京区が20万ちょっとでございますので、文京区でしたら17億円ぐらい出てもおかしくはないというところがございますけれども、やはりプレミアムお買物券事業は、売り上げというよりもきずな、先ほど申し上げましたきずなということと、それから生活者の支援ということも非常にございますので、今後ほかの課とも、経済課だけではなくて、ほかのところとの組み合わせた施策も考えていただければありがたいのかなということで、また期待しております。

それから、商店とはちょっと外れというのか、あれですけども、この頃やはり、商店街には自転車で来られる方が非常に多いということでございまして、お店から出て、あっ、危ないという



のが非常に多いんですね。この頃、やはり電動自転車、かなりスピードが出ておりますので、お店から出た瞬間にひかれそうになるというのが非常に多い。また、歩いていても危ないというのがかなりあって、事故も多いということでございますので、ふだん信号を守る方がですね、女性の方でも、男性の方でも、若い方でも、ふだんは信号を守る方が、自転車に乗った瞬間に信号を守らなくなるということがございますので、やはり、その辺に関しては、今後、自転車のルールの問題に関しても、非常に、何か罰則もあるんですけども、なかなか、3回違反すると何かしないといけないというのがありましたね、たしか。ですから、取り締まりをちゃんとしっかりしていただくこと、その辺があれかなと思いますけども、その辺は、また今後の施策として考えていただければありがたいのかなと思います。

以上でございます。

○岩間委員 岩間です。

もう既に、いろいろな方から出ているご意見と共感する部分が多かったんですけども、今回、課題解決型になったということで、取り組むべきことというのを各ページ読んでも、正直もっともだなという、何々する必要がありますだとか、何々が求められていますみたいな形で、同じような文言できれいに整われているので、何となく耳ざわりはいいんですけども、じゃあ、何をしたいのかなというものが全く見えてこなくて、具体的な解決目標であったりとか優先順位だったりとか、さっきも出ていた、私もそこは非常に気になったんですね。中長期的に、どういうふうにするんだということをもっと具体的に出してほしかったなというのが率直な感想です。

例えば、子育ての切れ目のない支援というところも、私、文京区でファミリーサポートの支援会員をしているんですけども、例えば、そういうものの存在さえもあまり知られていなくて、私は今、何人かお手伝いしていますけれども、大変喜ばれるんですね。そういうことをもっと知っていれば、早く知っていればよかったとか、知らない人が周りにいっぱいいるとかというのを聞くと、何か社協さんがマッチングしてくださったりもしているんですけど、それも、あまり私はうまく機能していないような気がするんですよ。もっとやりたいし、また、仕事をしながら実はそれもやっているんだけど、そういう専業主婦ではない、キャリアを積んできたお母さんにサポートしてもらいたい人もいますよ。という、今、多様化しているので、いろんなニーズがあるので、それにふさわしい人のマッチングをしていかなきゃいけないとか、そういうもっと本当に具体的なことを取り組むべきポイントとして上げてもらえると、何かちょっと区民の声、反映しているじゃないという実感が湧くような気がするので、私としては、そういうものをさっきの民生委員の下田さんもおっしゃっていた、何かそういうことを、ここで明らかにしていただきたいかったなというのが実感です。

いろんな情報弱者のお話もありましたけど、確かに、こういうところに来る方は、正直意識が高く、皆さん見事におしゃべりになりますから、私なんかはびびっちゃうんですが、やっぱり本当は、こういうところでも、ドキドキして発言もできない。自分も何を考えているのかよくわ

からない。だけど、いろいろ知りたいことが自分のところに届いていないという人に、どうやって届けるのかということなんですよ、一番大事なものは。

私は出版社に勤めているので、情報をつくり、伝える仕事をするんですけど、今その伝える人たちのニーズが本当にまちまちだし、ちゃんと伝わっているかどうかということが、やっぱり気がかりなんです。

娘は医者をしているので、健康講座みたいなのを病院でするんですけど、やっぱり来る人は、健康意識の高い、正直お金のある人たちで、生活保護の人も、今はすごくたくさんいるので、そういう患者さんが実は多いんですよ。なんだけど、そういう人たちは、本当に、こんなことも知らないんですかということを知らない。そして、お金に困っているときに、どこに言いに行けばいいのかも知らないという人たちに、どう手を差し伸べていいのかというのが、それも医者役割になっていて、仕事が増える一方とか文句を言っていますけど、でも本当に、どこに相談しに行っていかわからない人たちもいっぱいいるんです。

だから、そういうところも含めて、もっと本当に入り込んで、具体的に、さっきの保育園と幼稚園とか、いろんな線引きのお話も出ましたけど、全てを取っ払って、区民の立場、目線に立った、いろんな施策を考えていかないと、ちょっと立ち行かないかなという気がして、ちょっと心配なところがありました。

以上です。

**○島川委員** 町連代表で来ました島川と申します。

実は、私の仕事は製本をやっているんですけども、文京区は、いつも言うように、地場産業は製本と、本郷のほうでやっている医療機器ですね。これが文京区の地場産業というんですけども、じゃあ、名前だけで、じゃあ、文京区はどれだけの援助をしてくれるかということ、何もしておりません。ただ、名前を言うだけで、変な話、融資にしても、じゃあ、地場産業だから20%アップとか、そういうのは一切ありません。ただ銀行さんを紹介してくれるだけの話で。

あとは、今一番私が困っているのは、文京区だけじゃないんですけども、東京都が社員の給料をどんどんどんどん、基本をアップしています。昔は800円ぐらいだったんですけども、それが上がって980円になり、今は1,013円になり、ところが、もらう方は、今でも20年前と同じ、企業からの給料なんです。だからそのギャップが来まして、製本屋さんは、みんなどんどん廃業していきます。今、実際問題、ここ2年ぐらいで40社ぐらいやめています。というのは、どっちかという、製本屋さんはみんな土地が広いので、もうこのままでは生き残れないからやめて、マンションにしちゃいましょうとか、そういうところばかりですね。だから、このところを、勝手にどんどん基本給料だけ上げられても、零細企業はどんどんなくなっていきますよね。これは文京区さんに言ってもしょうがないんですけども、それで一応、相談しても、中小支援委員ですか。これは来ても、企業診断だとか、そういうことはしてくれますけども、そのほかのことは一切しません。組合としても、一応、出版社なり何なりに賃上げを言っ

ているんですけども、出版社は出版社で、いや、紙代が上がりました、人件費が上がりましたで、支払いのほうは元の20年前のままなんです。というのは、皆さんが思っているほど、そこは1回1回、見積もりをすればいいんじゃないかということは言われますけども、実際、大企業は見積もりは一切しません。全部、うちの会社はこういう単価でやっておりますので、それでお願いしますという形を取っておりますので、本当に支払いのほうは上がりません。ただ、なくなったのは、手形がなくなったというぐらいなもので、実際問題は、製本のほうは今一番大変な時期だと思っております。

だから、私も2年やっているんですけども、自分で、まだ仕事をしている関係で、全部出なくて申し訳ないと思っておりますけども、いろんなことでは、やっぱり情報が皆さんから仕入れていただきまして、大変助かっております。

あと、この前の防災無線の話ですけども、確かに、各電話に、一斉に文京区は避難してくださいとか言いましたけども、あれは水が出るところと崖のところだけということなんですけども、それが年寄りにはわからなくて、私、会長をやっているんですけど、3人ぐらい、「町会長、もう避難しなきゃいけないんでしょうか」とかいう電話が入りました。けども、「この辺は水が出ないので、その地域じゃないから大丈夫ですよ。そのときは教えますから」ということで対処しましたけど、地域の人も自分の地域が、今、水が出る地域なのか、崖の地域なのか、町会では説明はしているんですけども、避難所は知っているんですけど、自分の地域が何のところに属しているのかがわかっていないみたいで、そのところをもうちょっと周知してもらいたいと思っております。

以上でございます。

**○長尾委員** 区民委員の長尾です。2年間ありがとうございました。

今回、行政のこういう立場で携わったのが初めてだったので、正直、企業のようにこういう形でPDCAを回しているということも初めて知って、ちょっと驚きと、すごいなというふうに思い、今、本当に、とても勉強になりました。

やっぱり、計画を一応、一通り見ると、日々の生活で本当に密接して、あそこで言っていたことは、ここで実現されているというのを非常に意識するようになって、すごく本当によかったと思っております。

あと、実際行政に携わっているいろんな課長さんとかも出席されていたので、その顔が直接見れたというのは、すごく面白かったなと個人的には思います。

かつ、実際、去年と今年で、こんないろいろ計画が進んでいて、ニッチなところで言うと、例えば保育所が実際に増えたとか、放課後事業の子ども関係、申し訳ないんですけど、というものが実際に増えていて、実際2年ぐらい前までは、小学校の放課後の見守りのところが、まだまだ区全体で広がるとは思えなかったものが、今回の計画では広がって、全てが整備されているというのは、着実にもう整備されているなというので、本当に感謝というか、ありがたいなと思って

います。

ちょっと私からも1点。かなり今回、いろいろ広い、今回、五十何項目もあって、全部を出すと総花だし、かといって多分、焦点を絞りすぎると、ほかのはどうなったとつかれるんだろうなと思って、本当に難しいなと思うんですけど、そこから考えると、ちょっとニッチな話かもしれないんですけども、やっぱり行政のICT化というものを、ちょっとどう考えるのかなというのを当初から考えています。

ICTというものを、そもそも行政、区という行政に求めるかどうかというのが、私の中でもうまく整理ができなくて、この場でこう言おうか、ちょっと意見もちょっとまとまっていなくて申し訳ないんですけども、最初の着想というのは、やっぱりペーパーレスから始まっていて、以前もちょっとお話ししたと思うんですけども、やっぱり子どもが小学校に行っているの、小学校では本当にプリントが多くて、間違いなくパソコンでつくったプリントをプリントアウトして、多分それを全てクラス別に分けて、クラスに持って行って配って、それを持ち帰って、親はそれを見て、私の場合は全てそれをPDFに取り込んでいるんですけども、その紙を捨てるという、それが一連の作業で、それがどうにもこうにも何かちょっと許せなくて。

以前、私、子どもがアメリカの幼稚園に通っていたことがあって、そこでのちょっとお話なんですけれども、幼稚園では基本的に、半強制的にEメールアドレスを集められて、連絡は全てそこでした。やっぱり不便なことも、もちろんあったと思うんですけども、それで、そういうものだということ、やっぱりみんなそれに従うというところがあって。そういう、ちょっと日本の小学校でも、「やっぱりクラスのEメールアドレスなんかを集めて、こういう手段があるんで、いつでも連絡が取れますよ」ということを先生に言っても、やっぱり先生としては、過去にそういうトラブルがいろいろあったと思うんで、「自分のクラスだけやるとか、そういうことはできない」というようなことを言われたときに、やっぱり単体の小学校でそういうことを判断するとか、小学校に限らないんですけども、そういう判断が難しいのかなと思うと、やっぱり区というところから何らかのことをやっていくというのは必要なのかなと思って、やはりICTというのを考えたほうがいいかなと思っていて、以前ご質問したときに、実際に、今いろいろ改善されていると思います。

小学校の連絡手段も、LINEだったり来るものもありますし、区からもいろいろな子ども情報がメールで発信されるんですけども、第四次産業革命じゃないんですけど、ここで思っている以上の物すごいスピードで、多分、今後5年後ぐらいには、全く違う世界があって、今のこの現実世界と、バーチャルリアリティの世界というものが、実は並行してあって、そこは、この委員の中では、私はちょっと結構いい年齢なんですけど、比較的それでも、この中だと若いレベルになっちゃうのかなと思うんですけど、私から見ても理解ができない結構若い層というのは、やっぱり区内には物すごくいて、そこでどういうことが起こるのかなというのをぼんやりと思っています。

そこでちょっと、文京区だからこそできるかもしれないんですけど、やっぱり官、民と、あと学というところの連携で、うまくそういうところを区政にどう生かすかみたいなものの実験じゃないんですけど、どういう、柔軟な発想みたいなものを吸い上げていくみたいなことを考えてもいいのかなと思いつながら、54項目の中にはどこにも合致しそうになかったの、ちょっと一言と思って申し上げてみました。

非常に勉強になりました。ありがとうございます。

**○社会長** 皆さん、どうもありがとうございます。たくさんのご意見をいただきまして、少し時間をかけて紹介したいと思いますが、まず、今日のところで答えられる範囲を課長、それから部長の順番に、それぞれ、それこそ事前に通告があった質問じゃないので、十二分に全部答えられるかどうかわかりませんし、二人でちょっと回答が違うところもあるかもしれませんが、今後の展望を考えながら、お答えいただきたいと思います。

それじゃあ、まず課長からお願いします。

**○大川企画課長** いろいろなご意見、本当にありがとうございます。

この議事録は、本当に何回も何回も読み返したいなというぐらいの貴重なご意見をいただいたと思っています。

個々の分野のところの回答というのは、所管の課長でもないの、なかなか答えづらいので、企画課長として、響いたところについて答えます。

ペーパーレスとかICT化というところについては、当然、区としても何かしら頑張っていきたいと思っていますけれども、恐らく行政が一番おけているのではないかなと思います。やっぱりICTに携わる、最先端に携わる人材がなかなかいないですし、どうしても昭和のまま、まさにそのとおりだと思います。会議のあり方ですとか、こういう資料のつくり方も、まさに多分、民間から比べるとすごいおけているんだろうなと思っています。そこをどうやっていくかというところは、私もかなり上のほうの世代に入っていますが、なかなか難しいところかなと思っていますけれども、周りがどんどんどんどん変わっていきますし、そこにいち早く手をつける自治体というのは、最先端をどんどんどんどん進んでいくというところがありますので、そこは一つ、大きな今後の行政の課題と思っています。課題としか、お答えようがありません。

また、気になったのは、乾さんの評価のところ。当然、定量・定性も重要だと思っています。ただ、今回の目標達成型ということで、目標の達成の数値の設定の仕方というところにも、いろいろとあると思います。達成しやすい目標を立てているところとか、本当の課題解決にしたら、こんな指標ではなく、もう少し上のところでしょう。では、そこをどうやって図っていくの、非常に評価というのは我々も悩ましいところで、今回の総合戦略をつくっている中でも、まだ評価をどうしていこうかというのは、まさに今、検討している最中です。アウトカム、アウトプット、いろいろとあるところがありながら、どうやって課題解決に、これからやっていこうとしている事業が寄与できているのか、できていないのか。どういう見直しをしたらいいのかという

ところを、数字で見せて、すぐ結論が出ればいいのですが、なかなか測り知れない部分もあるので、その評価をどうしていったらいいのかなというのが、非常に我々としても、考えているところです。あまりにもロジック的に行きすぎても、逆にわかりにくくなってしまいます。では、丸かバツかとしても、それではどうなのかということで、評価の点はすごく悩ましいと思っています。

また、総花的というお話がありまして、54というのも、割とかなり絞ったという認識は、私の方にはあります。行政という、1,000を超える事業に取り組んでいます。当然のこのように、住民基本台帳ですとか、税ですとか、法に基づいている事業もありながら、まだまだほかに課題というのを挙げれば切りがない。その中で、3期にわたってやってきた実施計画を検証して、歴史を紐解いていきつつ、まだまだ課題が残っているものは何だろうか、そして、今、最近出てきている新たな課題は何だろうかというところをいろいろと突き詰めて、なるべく総花的にはならないように絞って、なかなか民間企業のように、ターゲットをここに1点に集中してということではなく、やっぱり住民福祉の向上というのが全体的な我々の目標になってくるので、そこら辺の課題の設定の仕方、その数というのは、なかなか難しいかなと思っています。

それと、どれだけ本当に我々のやっていること、情報を伝えられるのかというのは、皆さんからも非常に大きな声が出たので、まだまだ足りない、やり方が足りないなど。議会でも、周知をどうするんですか、どこまでこれを広めているんですかというところのことを必ず聞かれる。いかに情報をちゃんと伝えるかというところの難しさは感じているので、その辺は、しっかりとやっていきたいと思っています。

最後に、やはり区民の方の意見を聞くというところは、我々としては協働・協治を掲げているので、あらゆるところで区民参画を図っている中で、我々と接しない方との意見というところまでたどり着くというのが、なかなか難しい。ただ、やはりここは行政だけで決めていけるわけではないので、しっかりと区民参画、また区民の意見をどうやって聞いて繁栄をさせていけるかというところについては、これまでも意を用いてやってきたつもりですし、これからも、より多様化するとなると、すごい意見がまたあると思いますので、そういうところをどのように酌み取って区政に反映させていけばいいかというところについては、ここもまさに永遠の主要課題かなとは思いますが、一つ一つ、しっかりと区民の方々の協働、また産学官ということで、官民の連携、そういうところをどのようにやっていけばいいかについては、主要課題の大きな一つ、二つとして捉えていますので、積極的に、いろいろとトライをしていきたいと思っています。

いろいろな意見をありがとうございました。

最後に、資料第5号の、最後のページに、戦略シートの全体像をつけていて、主要課題に対して、どのようにやっていくのというのを今、右半分を一生懸命考えているところです。4年後までには、少なくともここまでやっていこう、そのためにはこういった事業を展開していこうというところの、戦術というところですね。手段というところを、これから一生懸命まとめていきたいと思っていますので、またお気づきの点がありましたら、ご意見をいただければと思います。

ありがとうございました。

○久住企画政策部長 企画政策部長の久住です。

先ほど会が始まる前に、辻会長と、今日どのように進めようかということで、次期計画について皆さんからのご意見をいただくということで、お一人お一人全ての方にご発言をいただきたいということで、こちらの方でまとめた形で回答をしてねというご指摘をいただいて、課長と部長でメモをしながらまとめていこうということで、会議に臨ませていただきました。

貴重なご意見をいただいたこと、本当に感謝をしたいと思います。

今、大川課長のほうから、総花的な話ではなくて、幾つか項目に分けてお話をした部分と、私を感じた部分も大きく変わっていませんでしたので、部長と課長で回答が変わったら困っちゃうなと思って聞いていたんですが、そういうこともなかったの、重なる部分はたくさんあると思いますけども、一つは、皆さんから出た情報の伝え方。どういうふうにしつかりと区民の皆さんにわかりやすい情報を的確に伝えていくのかというのは、意を用いていかなければいけないと。

それから、乾委員や岩間委員から出た、何をするのか。戦術だったり、指標だったり、やるに当たっての、そういった取組のメルクマールになるようなものを、もっと明確にしていかなければならないのではないか。そうしないと、結局これをやりますよという大きなことについては、みんな賛成なんだけど、じゃあ、それをどうやってやるの、どうやってやったら、どうなったのといったところが、もう少し明確に、次期計画の中には見えるような形にしておく必要があるというふうに思いました。

もう一つは、重点的に物事に取り組むというところが、もう少し行政の使命では、「ゆりかごから墓場まで」というふうに言われますけれども、まだ、その中でも重点的に何かをやるというところが、総花的でない、めり張りをつけた施策を見ていただくという姿勢も大事なのではないかな。それは、これまで社会状況が大きく変わっている中では、そういった指摘をしていくことも大事なのではないかなと思いました。

それから、商店街のご指摘であったり、8050のご指摘の中で、他施策との連携をどういうふうにしていくのかといったところが、もう少し見えるような形にしていくべきなのではないか。50歳になる前に、もう少し中学校での不登校の子どもたちを丁寧に見ていけば、そこまでひきこもりになる方を防げたかもしれない。そこは非常に我々としても、例えば何々部のどこどこ課がこれを行っていますということだけではなくて、もっと、その施策ごとの連携を高めていくというのが、次の施策には必要になってくるだろうなと思いました。

それから、根尾委員からも出た、私も、よく個人的なお話で、お母様もよくご存じなんですけど、ねっこの会ということで、小学校の放課後に、そういう知的障害があるわけではないんだけど、ちょっといろんな問題で学習につまずいている子を、本当に一人に対して支援員一人で見、勉強を教えて、放課後にやっているんですね。非常に丁寧な取組をされていて、すばらしいなというふうに、教育のときに一緒に話をしたことがあったりして、やっぱりそういうふうに、

現場に近い声をより反映した施策にしていくということが、よりこの施策に息を吹き込んでいたりだとか、生きた施策にするということが大事なのではないかな。そういう意味での評価をして、施策をより練り上げていくという形をどういうふうにつくっていくのかということが、一つ課題なんだろうなと。

今回、2年間ご審議をいただいた基本構想の実施計画の評価については、3年間の計画中の事業については、3年間の中で見直しはしませんよというルールの中で取り組んでまいりました。

ただ、冒頭から申し上げているように、これだけ社会状況が大きく変わる中で、3年間コンクリートで本当にいいのというのは、私たちも同じ思いでいます。

今、幾つか項目ごとにご指摘いただいた中身を、少し自分なりに消化してお話しさせていただきましたけれども、そういったご指摘を踏まえて、次期計画については、毎年度見直しも含めてやっていこうと。今年是这样やったけど、戦略的にこれはまずかったよねということであれば、戦略を変え、もしくは戦術を変えてみようということも、次期計画の中ではフレキシブルにやっていったらいいのではないのかなと思っています。

今日いただいたご意見については、非常に資産に富むというか、私たちにとっても重要な指摘だったなと思っていますので、これから計画をつくるに当たって、様々な部分で、反映ができる部分については取り入れて、よりよいものをつくっていければと思います。

ありがとうございました。

**○社会長** それでは、最後に私も全体の感想を述べたいと思います。

皆さんからご指摘された中で、やっぱり、ここにいる事務局とも、私も感想も同じなんですけど、比較的頑張って重点化したつもりなんですけど、そこはほとんど評価されず、皆さんの言われるとおり総花的。形式的にはきれいだけど総花的で、戦略がよく見えないと、戦術が見えないと、こういう指摘は、多分ほぼ共通にあったんじゃないかなと思います。

私も確かに、改めて見ていて、私も質問して思ったんですけど、結局いろいろ苦労してつくったんですけど、施策は組み変えてはいるんだけど、あまり中身も、要するに、今いい意味で継承しているところも多いんですけど、極端に奇をてらって、珍奇な新しい施策を打つわけではないので、そういう意味では非常に保守的な、確かに昭和とまで言っているかわからないけど、平成のにおいはプンプンする。そういうような計画になっている。

私は、理由は二つあると思っています、一つは、施策の中心が保育とか、高齢者福祉だとか、教育だとか、やっぱり社会保障のようなものが増えてきていて、区民から見ると、首長が手柄を当てることを何か期待するんじゃなくて、やっぱりやるべきことを持続的に、ずっと続けてほしいと。ずっと続けることで、安心感が生まれて、育てやすい環境ができると、こういうような性格のものが非常に増えてきていると。それに一つ起因するところがあるんじゃないかというふうに思っています。これは、プラスの側面もあるんじゃないかということですね。

ただ、計画のつくり方、その他の中で、継続していくべきものは継続していかなければだめな



んだけど、うまく革新的な要素を取り入れて、ニューバージョンで費用対効果よく新しいものを展開していくという必要性はあって、そのことについては、やっぱり今後、さらに努力していかなければならないということだと思っんです。

ですから、文京区全体としては、今後もますます社会保障を重視して、皆さんの安心第一ということで、高齢者も増えてきますし子どもも増えてきますので、そういう性格になっていくんですが、しかし今日、皆さんからいろいろ提言もありましたが、SNSを使ってうまくマッチングしていくですとか、住民参画の仕組みをうまく使って民民の中で展開していくですとか、こういうような戦略を展開することによって、予算の多寡にかかわらず、広い領域で一定のサービス水準は常に提供するということが成功することができるんじゃないかというふうに思いました。

過去4年間の計画を見ると、今回の計画も、もともと総花的に見えたわけですけど、実際の執行レベルで考えると、私はやっぱり他の区と比べても、それから日本全体の中でも、かなり特色のある計画、特色のある成果が出ていたんじゃないかと思っていまして、やっぱりそれは、子ども・子育て関係ですね。これは途中、一度お話ししましたが、今、それこそどこも同じように子ども・子育ては重視しているんですが、しかし今回増やしたロット、それから質の問題については、いろいろ今後も課題はあるかもしれないというご指摘も受けているので、質の問題も含めて、今後さらに努力していかなければならないところはありますが、量的には結構思い切った拡充をして、しかも、その中で結果として、子どもも人口も、この中で、そんなに他区に嫌みを言われるほど、いやらしく施策を展開して増やしていくわけではなくて、しかし何とかここまで来たのは、やっぱり私は、これは文京区、それから皆さんの成果があるんじゃないかというふうに思っています。

私が見る限り、じゃあ、このおかげで、ほかのところは手を抜いているかというところ、そこまではやっていないので、今のところは皆さんの努力と、それから文京区の今までの施策の継続と、それから財政事情とに恵まれて、一定の重点化ができたのではないかと、結果的には思っっています。

しかし、皆様の今回の指摘の中にありましたが、今後、ますます後期高齢者の人は増えてきます。この人はどうしても、どんなに自分で気をつけたって、病院にはどうしても行きがちになりますし、行政的にも費用がかかる側面が出てきます。

それと、日本全体で、意外に、この四、五年間で、財政費用がかかりそうだとわかったのが防災。これも今日、皆さんの中に指摘がありましたが、要するに、パルテノン神殿だとか言われて、あんなため池は無駄じゃないかと言われたところが、目いっぱいになって、それで辛うじて洪水を防げていると。こういうような厳しい状況の中で、防災に関しては、いわゆる人的なソフトの部分も、ハードの部分も、今後もますます努力していかなければならない。

しかし、子育て問題にしても、やっと成果が出始めてきたところなんで、今後さらに継続的に努力をしていかなきゃならないということなんで、これら三つを今後、やっぱりバランスよく、

どうやって実施していけばいいかということをお皆さんの厳しい視線の下、努力していくということが必要なと改めて思いました。

私が今まで文京区で仕事をしてきて、これは本当に思って、前にも一度お話ししたことがあると思うんですが、文京区の皆さんは割と愚直で、その場ではすぐ対応してくれないこともあるんですが、1年間ぐらいかかると、結構1年後に、もう委員を辞めている後で、ちゃんと対応しているとか、こういうところがあります。皆さんが今回提案されたことの中で、すぐその場では反映されなかったことも、私はこの後、少し時間はかかるかもしれませんが、ある程度しっかり対応していただけることが多いんじゃないかというふうに期待しています。

私は今回議論に参加した中でも、今日も改めて出ていましたが、子どもに関する幼稚園と保育園、それから公立、私立の問題、これの垣根の問題が今日も、それから前のときも指摘されましたが、行政の中に長くいると、これはあるのが前提で、ある前提の中で、ここまでやったからいいんじゃないかというふうに思うところがある一方、皆さんで、もうちょっと高い視点から、やっぱりもっといかないと、イコルフットィングにもならないし、区民は迷惑だと。それから、僕も反省していますけど、やっぱりここに出てくる指標は、区だから区立の中学校とか、区立の教育の指標だけ上がっていくのが当然のように思っていましたけれど、でも、やっぱり原点ですし、それがあるとやっぱりそれはちょっとおかしいと。全体をカバーするようなものにしていかなきゃならないと。こういう、今回、指標の原点の洗い直しの一番地道なところからも、皆さんから非常に厳しいご指摘もあって、今後、これらのことは皆さんの指摘も踏まえて着実に改善していかなければならないんじゃないかというふうに思いました。

改めて、文京区の政策を追っていくと、文京区にとっていいことばかりではなく、日本全体の先駆的な事例になるようなものも、いっぱいありそうな感じはしました。

今日ご指摘された中にも、いわゆるマンションが増えて商店がなくなるという話もありまして、実は、同じようなことは国土交通省の都市計画審議会もやっぱり考えていて、住専地域にもコンビニを建てられるようにしたらいいんじゃないかということが、一部提案はされてはいるんです。ただ、これ結構面倒なのは、住宅も余っていて、商店の床も過剰になってきて、結局全体の地域のバランスを考えなければならないんですが、いずれにしても単純に増やせない状況になっていて、要するに、都市計画制度でどういう制度改革をするかというよりも、その地区の中の地区計画の中で、その地区がどういう計画をつくったらベストなのかということからやらないと、なかなか、いいまちづくりにならないというような形になっていまして、やっぱりこの商店問題、住宅問題も、改めて借家の問題もそうなんです。改めて、町という単位で、まちづくりの観点から考えていかなきゃならないという状況に来ているというふうに思います。

最後に、皆さんのほうからも指摘もありましたが、やっぱり文京区の皆さんの高いレベルを考えると、ICT化の最先端を行くというような形で、伸ばせるところは伸ばして行って、それに対して高齢者にも負担にならないと、こういうようなサービス形態を実際考えていくのは、あり

得るんじゃないかなという感じがしています。

区という単位は、狭いんですけど、住民との接点なんで、一番ICT化の影響の大きいところなんです。ただ、これも皆さんのご指摘もありましたが、文京区の中だけで完結したほうがいいものもあるんですが、例えば今、私がやっている中だと、地方税の、法人税なんかもそうなんです、申告制度ですね。これは結構、東京都とか各市ごとに様々なんです、これがICT化になじまないというので、全国標準にしろという作業が急速に今進んできています。となると、中途半端に区だけでやってもうまくいかないの、そこは全国だとか東京の範囲を超えて、しっかりやっていかなきゃならないというものもあって、そこら辺のところをうまく皆さんと知恵を出し合いながら今後もやっていくのがベストじゃないかというふうに思いました。

最後ですが、私が今回これをやらせていただいて一番感じたのは、今回、皆さんそれぞれ意見は多様にお持ちで、しかも、あまり執行部に変な付度はしない範囲で、しかし、やっぱり全体の一つのチームとして、限られた2時間の時間の中に、なるべくたくさんの意見を出していただいて、しかも、なるべくみんなが楽しい雰囲気を維持できるような形で、円滑な議事進行に協力していただいたというふうに思っていて、今後、やっぱりまちづくりで一番重要なことは、楽しいこと。やって楽しくないと、参加して続けられないので、ぜひ、お忙しい中、皆さん今回参加していただいて、それでも、なかなかつらい思いですとか、発言のチャンスがなかった方もおられるかもしれませんが、それでも私から思いますと、例年の中では、皆さん一つのチームとして個々の多様性も生かしながら、全体でいいパフォーマンスを上げてくださったというふうに強く感謝しております。

どうもありがとうございました。

それでは、少し長引きましたが、以上で本日の議事は終了させていただきます、あとの進行は事務局へお渡しします。

**○大川企画課長** いろいろとありがとうございました。委員の皆様におかれましては、基本構想の実現度評価や、総合戦略の策定などに関する事項につきまして、熱心なご議論いただきまして、本当にありがとうございます。

第1回から第4回で審議した実現度評価と本日審議いただいた総合戦略に関する今後のスケジュールですけれども、今後11月の定例議会のほうで報告をさせていただきます。その後、12月から1月にかけて、パブリックコメントという形で改めて広く区民の方に、実現度評価と、この戦略についてのご意見を聞いていきたいと思っております。

また、総合戦略については、区民説明会を12月に開催する予定で、最終的には2月の議会に報告をしていこうと思っております。

完成した2月あたりには、また関心を持って読んでいただければ、またご意見があれば、いただければと思います。よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

それでは、最後に事務局を代表して、企画政策部長から、ご挨拶を申し上げます。

**○久住企画政策部長** 今回、最後になります。

辻会長から、いろいろ2年間の総括をいただいたところですが、改めて事務局を代表して、お礼を申し上げたいと思います。

この会が終わって片づけをして、企画課に戻って職員と話をする、今日も鋭い議論と意見があったねというお話を、職員同士で話をする。そういう意味では、いい会議体だったし、貴重なご意見をいただく場だったなというふうに思っています。

ただ、そういったご意見に対して、我々部課長の方が何となくすれ違った答弁をしてしまったりとか、そこに面と向かって意見を返さないような雰囲気も少しあって、どうしても我々、住民の皆さんと余計なトラブルは避けるみたいな性が植えついているので、辻会長からもあったように、いい議論の場であれば、少し議論をしていきながら、いろいろ施策を練り上げていく、よりよく昇華していく場であるべきなのかなと、少し反省をしているところも事実でございます。

そうした意味で、企画課長からお話しさせていただきましたように、次期計画を今つくっておりますので、この2年間でいただいたご意見が反映されて、よりよい議論ができる場、よりよい施策になっていくような計画としてまいりたいと思っておりますので、引き続き、皆さん方のご指導等もいただければありがたいなというふうに思います。

最後に、文京区、区民との協働、ガバナンスの考え方を、協働・協治という形でお示して、今日うれしかったのは、もっと区民と一緒にやっていきたいと思いますよというふうに、おっしゃっていただいた委員の方が何人かいらっしゃいました。私、今年定年になりますけれども、30年ほど前は、そういった意見はなかなか出てこなかったんですね。そういう意味では、自分たちと一緒にやって、よりよいものをつくっていかうという姿勢を皆さんから指摘いただいたこと。本当にいい時代になったなというふうに思いますし、そこを大事にしながら進めていければなというふうに思います。

2年間、本当にありがとうございました。

**○大川企画課長** これをもちまして、区民協議会を閉会いたします。

本日使用した資料は、お持ち帰りください。閲覧用の冊子については、そのままにしてください。

それでは、ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。